

<p style="text-align: center;">教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>やさしく かしこく たくましい 北小の子の育成</p> <p>(児童像)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある言動ができる子ども ・自主的によく学び、考える子ども ・最後までやりぬく子ども 	<p style="text-align: center;">今年度の指導の重点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. お互いを理解し、認め合い、思いやりのある言動ができる力を育てる。 2. 授業を工夫し、確かな学力の充実を図る。 3. 達成感を味わえる活動を取り入れ、人とのつながりを深める。
<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p>	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <p>国語はA、B問題共に県平均を上回っているが、全国並みにとどまっている。 算数はA、B問題共に県平均も全国平均も下回っている。</p> <p>県</p> <p>国語の基礎問題は、下回っているが、活用問題ではかなり上回っている。 算数(数学)、社会、理科においては、基礎問題、活用問題共に上回っている。 全体的に見るとやはり、活用力に課題がある。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>あいさつは、県平均並みで前年度より改善されている。 テレビの視聴時間は、1時間より少ない児童と4時間以上の児童の2極化している。 家庭での学習時間は、全くしない児童はいないものの、1時間以上している児童は6割程度である。 読書を1日あたり30分以上している児童は4割近くいる。 例年通り、自己肯定感も高く、学校に行くのは楽しいと感じている児童、地域の行事に参加している児童も多い。</p>
<p style="text-align: center;">成果と課題</p> <p>学習方法を学校で指導したことが、自主学習の取組やテストで間違ったところを解き直すなどの割合が高いことにつながっており、指導の成果と言える。 学校で落ち着いた雰囲気での授業ができており、自分の考えをもって、グループや学級全体で話し合う機会もとれている。 各教科が好きと回答した割合が高く、学習に対して前向きな児童が多い。特に算数は、少人数指導による個に応じた指導の成果が出ている。 学習に対する意欲は高いが、基礎的・基本的事項の学習内容の定着が十分とは言えない。 授業で自分の考えを書く時間や討論の時間を取っていることが、記述問題に対して前向きに取り組む姿勢につながっている。また、学年によっては、その力もついてきている。 各教科とも活用型の問題を苦手としている。</p>	<p style="text-align: center;">課題に対応した改善方法</p> <p>毎日の授業の中で、どの教科においても、自分の考えをノートに書く活動を取り入れる。 読み・書き・計算に課題のある児童の補充学習を、登校後の朝の時間、放課後を利用して行う。 テストでの解き直しや間違い直しを必ずさせる。 3学期のくすのきタイムでは、「各学年これだけは」必ず習得させたい内容を決め、全教職員で指導にあたる。 学年、学級通信で自学ノートの例や方法、課題のヒントなどを紹介する。</p>
<p style="text-align: center;">取組の検証方法及び検証時期</p> <p>保護者・児童アンケートの実施(2学期末) 授業評価シートの活用(学期ごとに) 3年生のNRT学力調査(3学期) 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。</p>	<p style="text-align: center;">達成目標(数値目標)</p> <p>各学年の家庭学習の取組時間を規定時間以上にする。 算数基礎問題の平均正答率を県平均並みにする。 国語・算数の単元テストの平均点を90点以上に上げる。 宿題の提出率を95%に上げる。</p>